

認知症の本人と介護者の国際的な QOL 尺度 (DEMQOL) に関する
日本版の作成及び信頼性・妥当性の確立に向けた実践的研究

ダイバーシティ推進室 助教

河野禎之

2015 年時点で 500 万人を超えると推計されている認知症の人への支援は、我が国における重大な社会的問題となっている。従来、認知症支援のアウトカム指標は、神経心理学的検査による認知機能障害の評価、行動観察や聞き取りによる精神・行動症状の評価、機能的側面に注目した ADL の評価などが主として用いられてきた。一方で、近年では当事者 (本人) 視点の主観的評価に基づく測定の重要性が注目されている。とくに、健康関連 QOL の測定により、支援が本人にとってどのような意味をもたらしたのかを考慮することが強く求められている。しかし、わが国では認知症を対象とした健康関連 QOL を測定するための尺度が十分に整備されていない現状にある。

そこで本研究では、認知症を対象とした健康関連 QOL の評価尺度である DEMQOL の日本版開発と信頼性・妥当性の予備的分析を実施することを目的とした。DEMQOL は英国の認知症国家戦略の策定メンバーを中心に開発され、当事者の体験や意見を積極的に取り入れた尺度である。平易な表現や実施マニュアルが準備されている等、認知症の本人に対する実施上の工夫が十分に考慮されている点が特徴である。また、介護者による代理評価として DEMQOL-Proxy も用意されており、本人評価と代理評価のそれぞれにおいて健康関連 QOL を測定できる点で有用性が高い。

我々は原著の翻訳及び逆翻訳を実施するとともに、翻訳版を用いて臨床群 39 名を対象とした予備調査を実施した。その結果、尺度の信頼性とした内的整合性では DEMQOL ($\alpha = 0.865$) と DEMQOL-Proxy ($\alpha = 0.844$) とともに高い値が示された。また、外的変数 (包括的健康関連 QOL 尺度の評価値や気分の評価値) とともに 0.3 以上の強い相関が示された。くわえて、ほぼ全員が欠損値なく評価を完遂することができた。これらのことから、翻訳版の DEMQOL と DEMQOL-Proxy とともに臨床群において信頼性と妥当性を有することが示された。さらに、本研究では評価を実際に担当した評価実施者から、翻訳版で用いた項目の修正に関するフィードバックも得られた。これらを踏まえることで、本調査に向けた信頼性と妥当性の高い日本版の作成につなげることができた。今後、より幅広いサンプリングに基づいた調査を実施することで信頼性・妥当性の検証をさらに進めるとともに、実際の介入研究による効果測定への応用など、人間系領域における横断的な研究へと発展させていきたい。